

週日の説教

金 大烈 神父 2008年12月12日(金)

《神様の呼びかけに応えましょう》

この世の中には、いろいろ苦勞をしている親の心があります。特に、障害を持っている子どもの親の心は、本当に暗闇に陥っているような気持ちだと思います。

どのような薬によっても治らない病気があります。自閉症といいます。自閉症は、自分の世界の中に閉じこもってしまい、ほかのこととの関わりや交わりが出来ません。いつも自分の世界の中に閉じこもって、世界を怖がりながら、人と関わることをものすごく嫌います。親や関わっている人のことさえ理解してくれなくて、いつも子どものような状態になってしまう病気です。

しかし、その自閉症の子どもが社会の一員として立ち上げられるくらいのレベルになることもあります。その陰には、母の涙とこめられた全ての思いがあります。自閉症には、現代の医学でも効果のある薬がないことは確かです。ただ、その子ども達がある程度の生活ができるまで世話をすることは、母の偉大な母性であると思います。皆様の知り合いの中でもそういう人々がいるのではないのでしょうか。

では、信仰にも自閉症があるのをご存知ですか。信仰的な自閉症というのは、どういうものでしょうか。私の目には、とくに日曜日のミサに与った後、外に出て何かの集まりで食事会をするとき、信仰的な自閉症、霊的な障害をもっている人がよく見えます。

信仰的な自閉症というのは、簡単にいいますと、職場で食事の時間になって十字架をかけない人です。カトリック信者であることを隠さず、人の前でたくましく "父と子と聖霊のみ名によって、アーメン" と祈ってから食事をする人は少ないです。特に日本の社会は、目立たないようにいつも遠慮をしてしまう文化を持っています。人と挨拶くらいはしても、できるだけ目立たないようにしてしまいます。ですから家族的な話はあまりしません。同じ職場の人でもその人の家族が何人いるか、入院しているのか、宗教を持っているのかさえわかりません。それはある意味で、個人のプライバシーを守る配慮になるかもしれませんが、絶対に福音的ではないと思います。

信仰的な自閉症は自分が持っている信仰を隠そうとします。隠れて何かしようとしします。簡単にいえば、膝の上に十字架をかけながら、「私は信仰者です。神様守ってください。」と祈るような消極的な姿勢を信仰的な自閉症の症状が現れていると言います。

福音にこのように書いてあります。あなたが私のことを知らないというならば、私も自分の父の前であなたを知らないと言う と。皆様はどのくらい自分の信仰について自信をもっていますか。いろいろな事情で外国から来ている人々がいますが、その人たちはとても積極的です。どこでもひざまずいて十字架をかけたり、聖堂の前で頭を下げたり、ろうそくを点けて自分の信仰を表そうとします。しかし、日本の教会では生ぬるい姿を見せている人々がたくさんいます。職場で十字架をかけてみてください。最初、まわりの人々は不思議がると思います。しかし、二回目にかけると、十字架をかける美しさが自然に人々の心に残ると思います。そのような気持ちで生きていけば、宣教になり、述べ伝えることができます。困っている人を見たら、私と一緒に教会へ行きましょと誘う勇気が大切です。皆様、自信を持って生きてください。この世の中で一番力のあるものが皆様のバックグラウンド(背景)なのです。なぜそれを恐れているのでしょうか。神様に恩返しをしたい気持ちが少しでもあるならば、人の前で十字架をかけましょ。それが宣教の信念の始まりになると思います。

今日の福音(マタイ 11:16 - 19)に入ってみましょ。

『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、悲しんでくれなかった。』
笛を吹いたのは誰でしょうか。葬式の歌をうたったのは誰でしょうか。この聖書の中にはイエス様の

もどかしさが表れています。私たちのためにいろいろ強く訴えているのに、聞いてくれない私たちの姿に、このような自然な気持ちが神様の口から表れていることを理解しましょう。私たちは神様の呼びかけをどのように思い、応えていくか。個人的にどのくらい使命を感じているか。要理の時間に習った預言者職、王職、司祭職に私たちはどのくらい与ろうとしているか。それを振り返ってみますと赦しの秘跡に与る気持ちになると思います。

全ての人が神様のみ旨に呼びかけられています。その呼びかけに「はい」とすぐに応えなければならぬのが信仰者です。

信仰の自閉症の人は、信仰にあふれている皆様の愛によって開放されます。なぜそのような行動をとるのかと聞く前に、信仰の模範となる姿を見せようとする必要があります。そのようにするときこそ、いろいろな愛の心が積極的に生まれると思います。

ありがとうございました。